

（1面からのつづき）

についても詳しく教えていただきました。微量と言われるが、実はハイリスクの指標だと強調されました。

三次予防とは「腎症にはなった、でも透析にならないようにする」ということ。腎症の治療として有望なものとしてSGLT2阻害薬とGLP-1受容体作動薬をエビデンスに基づいて

紹介されました。

最後に、腎臓専門医はかかりつけ医のサポート役であり、主役はかかりつけ医であるということを確認されました。併診することによって患者さんの悪化予防を行えたら、という先生の熱い気持ちを感じることができたすばらしい講演でした。

【灘区 小谷 圭】

ラジオ関西「医療知ろう！」に支部役員が出演

市民に医療情報を発信



11月8日の放送で口分田真先生（中央）がパーソナリティの寺谷一紀氏（左）、アシスタントの宮田志乃氏（右）に認知症について解説した

ラジオ関西番組「寺谷一紀と！ い・しょく・じゅう！」内の協会提供コーナー「医療知ろう！」に神戸支部から、森岡芳雄・口分田真（東灘区）両支幹事が出演した。

森岡先生は10月25日に出演。「神戸市の小児科病院閉鎖問題」をテーマに、低診療報酬により、病院経営が圧迫され、拠点病院と呼ばれる総合病院から小児科が次々と閉鎖されていることを解説。子どもたちが安心して医療を受けられる環境を作るためには医師数増、医療費増が不可欠だと説明した。

口分田先生は11月8日に出演し、「認知症の気づきのポイント」について話した。認知症とは、単純に「忘れっぽい」という症状だけでは

なく、普通にできていたことが急にできなくなるなどいくつかの段階があると解説。段階をすることで、認知症のはじまりに気づいたり、どの程度まで進行しているのかを把握することができ、早めに適切な対応ができることを説明した。また、11月11日は「いい介護の日」ということで、神戸支部も参加する社会保障推進協議会が行う介護・認知症なんでも電話相談について紹介した。この電話相談には全国から100件の相談が寄せられた。

※当日の様子は、番組ブログや協会ホームページ <http://www.hhk.jp/topics/2018/1030-090000> からご覧いただけます。

保険請求事務講習会でスタッフら95人が請求の基本学ぶ

実践を交えスキルアップ



保険請求の基礎やレセプト作成の方法分かりやすく解説した高野先生。

協会は9月29日に「初心者のための保険請求事務講習会（医科）」を協会会議室で開催。医療機関事務スタッフを中心に95人が参加した。台風の影響により、30日に予定されていた2日目の講習は中止となった。

29日は高野修一評議員（灘区・ろっこう医療生活協同組合灘診療所所長）が講師を務め、

「保険診療とは」「窓口業務」「各項目の点数」などについて講義。受講者は薬剤料の計算問題などに挑戦した。

同講習会は、協会発行の『保険請求の要点』をテキストに、保険診療や診療報酬の仕組み、窓口業務の基本など、保険請求に関する制度や事務について学ぶもの。医療事務初心者を対象に毎年4～5回開催しており、年間500人以上が参加する協会の人気企画となっている。

台風で中止となった、2日目の講義は11月25日に振替予定。

第39回神戸支部総会で選出された支部役員

（任期：2018年10月～2020年9月）

支部長	1人	田中 孝明（長田区）
副支部長	4人	武村 義人（中央区） 小西 達也（中央区） 近重 民雄（須磨区） 鈴田 明彦（灘区）
支部幹事	21人	（東灘区）口分田 真・村上 正治・伊賀 文彦・森岡 芳雄 （灘区）椿田 重彦・小谷 圭 （中央区）郷地 秀夫・林 重伸・加茂 統良（新）・武富 雅則（新） （兵庫区）吉川 信嘉 （北区）大石 麻利子・川西 敏雄 （長田区）上田 耕蔵・江原 重幸 （須磨区）加藤 擁一 （垂水区）高橋 知三郎・宮武 博明・佐々木 徹 （西区）吉岡 正雄・上山 幸治
顧問	1人	（灘区）落合 愛子